



寄付活動

社員から申請された非営利団体に対して、寄付を行っています。自らボランティアとして参加する団体、活動を応援している団体など、社員の社会貢献への気持ちがジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会の取り組みにもつながっています。

支援団体: 日本チェアスキー協会

1980年に設立された日本チェアスキー協会は、下半身に重度の障害をもつ人たちがスポーツを通じて生活の質を向上させることを目的にチェアスキーの普及に取り組んでいます。現在会員は、障害をもつチェアスキーヤー約200名とサポートスタッフ約100名。全く初めての人からレース競技を楽しむベテランまで、参加者の層も年々厚くなっています。障害をもつ人たちが安全にチェアスキーを楽しむためには、リハビリテーションの知識や障害者への理解がある指導員の育成が不可欠です。ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会では、チェアスキー指導者育成のための研修会開催費用の一部を寄付しました。



私は学生時代ずっとスポーツを続け、そこから喜びや満足感、感動、人と人との信頼感や思いやる気持ちなど、言葉には尽くせないたくさんのものを得ることができました。もし障害があるためにそのような経験ができないとしたら、同じ人間として不公平なことだと感じます。2004年、初めてボランティアとしてチェアスキー大会の運営に関わり、障害をもつ人たちがスポーツに参加できる機会の重要性を実感しました。これからも自分にできることでこの活動を支援していきたいと考えています。



ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
メディカルカンパニー 古川 裕子

その他の寄付先(50音順)

あやめ会「窓の会」プロジェクト、いのちの電話、ウイメンズネット・こうべ、うつコミュニティ、関西学院大学上ヶ原ハピタット、KIDS、こころに平和を実行委員会、子育てサポーター・チャオ、骨髄移植推進財団、子どもの虐待防止ネットワーク・あいち、こどもプロジェクト、埼玉県膠原病友の会、主婦会館、障害児の積極的な活動を支援する会にわとりクラブ、女性のからだと性の相談全国ネットワーク会議、新宿西共同作業所・ラバンス、青少年健康センター、チェルノブイリ医療基金、チェルノブイリ親の会 ベラルッセ、東京肝臓友の会、日本IDDMネットワーク、日本盲人マラソン協会、病氣とたたかう子どもたちに夢のキャンプ(そらぶちキッズキャンプ)を創る会、フードバンク関西、フローレンス、メノポーズを考える会



緊急災害支援

自然災害によって大きな被害もたらされた国や地域に対して、被災した人々の生活やコミュニティの再建を支援する活動を行っています。社員からの募金に会社からの拠出金を加えた寄付金や被災地のニーズに合った製品を送っています。

台風14号

2005年9月、長崎県に上陸した台風14号は、広い暴風域を維持したままゆっくりとした速度で進み、長時間にわたって高波、暴風、大雨をもたらしました。特に九州と四国地方では記録的な大雨となり、各地に多くの深刻な被害を残しました。

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会では、中でも被害の大きかった宮崎県、鹿児島県、山口県へ、日本赤十字社を通じて寄付金合計50万円を送りました。



写真提供：日本赤十字社

ハリケーン カトリーナ

2005年8月、アメリカ南部を襲った大型ハリケーン「カトリーナ」は、市の8割が水没したといわれるニューオーリンズ(ルイジアナ州)をはじめ、アラバマ州、ミシシッピ州などアメリカ南部に大洪水を引き起こしました。復興には数年の歳月と莫大な費用が必要といわれています。

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会では、ニューオーリンズを拠点として貧困層や高齢者等への支援活動を行っている非営利団体Willwoods Communityに100万円を寄付しました。

また、アメリカ本社およびアジア・パシフィック地域のジョンソン・エンド・ジョンソングループからは、合わせて約5億7,000万円を寄付しました。